

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書（前期）

平成26年7月18日（金）

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成26年7月18日（金） 午後4時00分～

会 場：敷島中学校校長室

参加者：学校関係者評価委員

西山 豊(委員長) 五味 和恵 長田 知子

長田 洋子 小林 淳

(学校側)

新海 賢一(校長) 岸本 貴志(教頭)

I 学校側から提案された内容

- ・学校運営の概要（グランドデザイン）、学校基本情報、本校における教育的課題、1学期の様子
- ・平成26年6月実施の教職員による自己評価と生徒アンケートの分析結果及び課題点と改善策を示した自己評価書
- ・「創甲斐教育推進大綱」に示された学校教育の充実に関する平成26年度目標数値に対する本年度及び昨年度の比較及びその改善策
- ・自己評価シート集計結果表（前年度および甲斐市全体との比較）
- ・生徒アンケート集計結果表（前年度および甲斐市全体との比較）

II 協議された主な内容

学校側から提示された自己評価書及び生徒アンケートの結果に基づき、本校の教育活動や学校運営の状況について、課題点が正しく把握されているか、改善策が適切であるか等について協議した。また、学校運営に関することや生徒の様子、今日的な教育課題等についても意見交換した。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員による自己評価については、A評価・B評価が多く高い肯定率を示し、概ね良好と言える。また、課題点に対する改善策が明確になっており、学校運営についてのPDCAサイクルを機能させることで学校運営の工夫改善・維持向上が期待できる。全体的には大きな問題もなく、落ち着きが見られるが、生徒が安全で安心して生活できる学校環境づくりを更にすすめてもらいたい。昔に比べ、地域の学校に対する思いが強くなっている。学習指導や生徒指導に関しても、地域や家庭が連携・協力してやっていかなければならないと考えている。

II 特 徴

- ・ 学校長の経営方針，教育理念を全職員が共有し，「報告・連絡・相談・確認」といった縦横の連携体制が密に行われ，教育活動が行われている。
- ・ 基礎基本の定着を意識した授業が行われている。
- ・ 生徒指導については，個々の生徒に寄り添いながら，家庭とも連携して粘り強くやっている。また，不登校対策やいじめ問題にも組織的に取り組んでいる。
- ・ P T A 一人一活動，あいさつ運動，鍛練，有価物回収等，特色ある教育活動を通して家庭や地域との連携を図っている。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・ わかる授業，個に応じた指導，基礎基本の習得およびその活用等について，教師一人一人の更なる授業力向上に向けた取り組み及び学校全体としての取り組みを更に充実させてほしい。
- ・ 生徒と教師，生徒同士のコミュニケーション等を通して人間関係や信頼関係を更に深め，問題の未然防止や早期発見・早期解決に努めていただきたい。
- ・ 防災や安全対策に関する危機管理意識を更に高め，災害等が発生したときに対する備えを万全なものにしてほしい。
- ・ 学習指導（含家庭学習），生徒指導，生き方指導等において，学校から地域に要請することと地域から学校に協力していくことがある。これらに適切に対応していくことが重要である。
- ・ 生徒一人一人が心身共に健康な学校生活を送るには，何より教職員が心身共に健康でなければならない。管理職の指導・助言の下，福利厚生についての環境を整えるとともに，教師の身体的・精神的な健康管理に留意してほしい。

※特記事項（意見交換の中で出されたもの）

- ・ 生徒の躓きをどう改善するか。地域と学校がタイアップする必要がある。
- ・ 勉強をやる・やらない，スポーツをやる・やらない等子どもは2極化してきていると感じる。
- ・ 先生に相談する生徒の割合が低いのが気になるが，大事なときに話をしてくれる関係をつくっていくことが大切である。
- ・ 子どもの携帯・スマホは生活習慣や学習習慣に深く関わり，それらを阻害している。親が適切に管理していかなければならない。
- ・ 家族と一緒に過ごしたり何かをしたりする時間をもっとつくってもらいたい。
- ・ 中学生が参加できる地域行事が少なくなっているように感じる。

記載責任者 甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員長

氏名 西 山 豊 ㊟